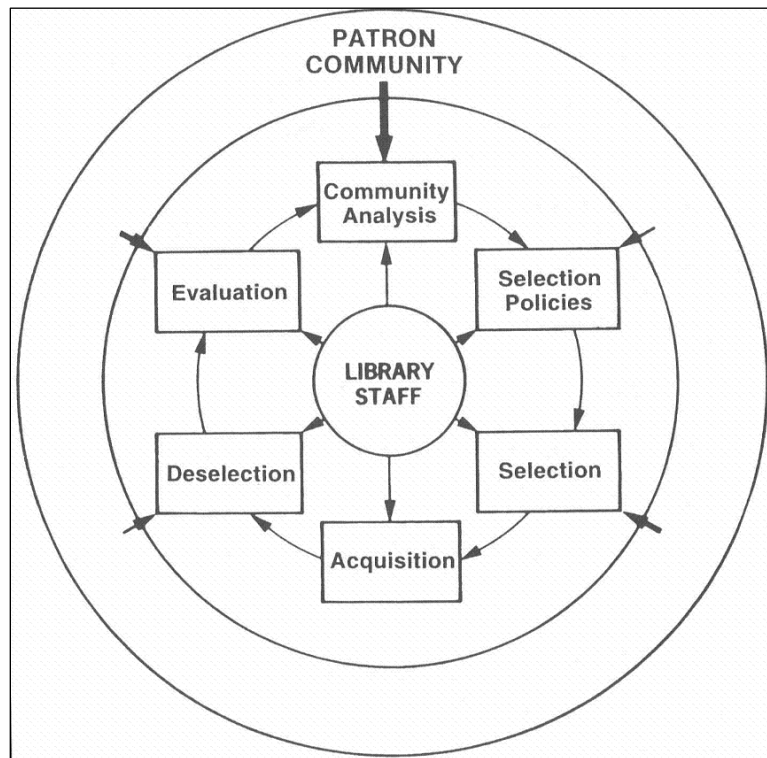


コレクションづくりの考え方

1. コレクションづくりのサイクル



【参考文献 p8】

Collection Development is'nt about buying new books; it is about mixing new releases with standard titles. It is about weeding and maintaining, not just ordering every thing on [a "best of"] list. It requires a balancing act between quality and popularity, single copies and multiples, old and new.

新しい本を買うことが蔵書構成なのではない。新しい本とスタンダードな本とを混ぜ合わせることを蔵書構成である。[最良の]図書リストにある本をすべて発注することが蔵書構成なのではない。不要な本を除架し、良好な状態を保つことが蔵書構成である。本の質と人気との間、複本数が 1 冊か多数かの間、古い本と新しい本との間で、バランスをとることが蔵書構成には必要である。

【参考文献 p69】

2. 収集方針と「図書館の自由」

- (1) 成文化し公開すること
- (2) 「拡張型」であること
 - ・「抑制型」... 「
」なので
なものは収集しない」
 - ・「拡張型」... 「すべての分野において「今」に対応する新鮮な資料を豊富に収集する」
- (3) 収集方針にもりこむ内容6項目

その図書館の奉仕対象とサービス活動が基本的にめざすところ
図書館資料と知的自由との関連
収集・選択の機構と決定にあたる責任の所在
収集する資料の範囲
利用者からの要求(リクエスト)と蔵書に対する批判への対処の方法
蔵書からの除去、廃棄についての基本的な考え方
【塩見昇「収集方針の成文化・公開の意義と図書館の自由」『収集方針と図書館の自由』
日本図書館協会 1998, p24-25】

第1 図書館は資料収集の自由を有する

- 1 図書館は、国民の知る自由を保障する機関として、国民のあらゆる資料要求にこたえなければならない。
- 2 図書館は、自らの責任において作成した収集方針にもとづき資料の選択および収集を行う。その際、
 - (1) 多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。
 - (2) 著者の思想的、宗教的、党派的立場にとらわれて、その著作を排除することはしない。
 - (3) 図書館員の個人的な関心や好みによって選択をしない。
 - (4) 個人・組織・団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり、紛糾をおそれて自己規制したりはしない。
 - (5) 寄贈資料の受入にあたっても同様である。図書館の収集した資料がどのような思想や主張をもっていようと、それを図書館および図書館員が支持することを意味するものではない。
- 3 図書館は、成文化された収集方針を公開して、広く社会からの批判と協力を得るようにつとめる。

【図書館の自由に関する宣言】

(4) 予約と蔵書批判への考え方

- ・ 予約を収集に生かすことによって、豊かで深みのある蔵書ができる。
- ・ 選書ツアーとは別(蔵書についての責任は図書館員にある)
- ・ 特定資料への批判をどのように考えるか(住民の意思表示)

所蔵図書へのご意見ありがとうございます。

市立図書館では、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立った資料を幅広く収集するよう心がけています。また中央図書館では、市立図書館システムの中核として、地域図書館、自動車図書館からの資料要求にも応えられる資料を網羅的に収集するよう努めています。

ご指摘のあった図書につきましては、昨年出版され批判と賞賛の両面がある図書であることを承知しております。また、子どもが悪用することへのご心配も、昨今の社会情勢からすれば、もっともなことかと存じます。

しかしながら、公共図書館は、多様な知識・情報・思想・信条・意見などを含む資料を市民に提供することで、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資することを目的とする公的な場です。もし、他者から批判されるような内容を含んでいるとの理由によって、図書館が特定の本に対して、特別な場所へ移管したり特別な印をつけたりすれば、市民が多様な知識・情報などへ自由に接することができなくなり、結果として図書館の目的が妨げられることとなります。このため、図書館では、そのようなことは可能な限り行わないように努めています。

なにとぞ、このような図書館の立場についてご理解をお願いいたします。【ある案文】

(5) 自己規制

- ・ 目立たないが最も多く最も危険。
- ・ 知は無知に勝る。迷ったら買う。

図書館員と検閲

Marjorie Fiske shook the library profession some years ago when she reported that a high percentage of librarians decided not to buy an item because it might cause a problem. Some titles are likely to cause trouble, for example, *The Joy of Sex* or Madonna's *Sex*, and these are easy to identify. However, an examination of the Sample list of titles that have caused trouble makes it evident that some problematic items are not easy to identify. After establishing the habit of not selecting a title that has the potential for controversy, it will be difficult to break the habit. Unfortunately, as with so many other habits, it is easy to slip into a behavior pattern without recognizing it.

Reasons like “lack of funds,” “no demand,” or “poor quality” may be true or they may be rationalizations for not selecting an item that might make life troublesome. Other excuses, such as “I will buy it when someone asks for it” or “I don’t like that author or producer; he or she never has anything worth-while to say, “ clearly signal danger. Just because a librarian does not like an author or a subject does not mean that he or she has the right to keep others from access. This may not be self-protective in the sense of job security but it may be self-protective in terms of one’s own psyche. In any case, the result is the same--censorship.

One way to raise the level of self-awareness is to periodically check one’s holdings against various list of problem items. How many does the library have? Holdings of less than 50 percent should cause one to question what is happening in the selection process. There may be perfectly good reasons why there are so few of these items in the collection, but until the librarian can give good reasons, he or she cannot complacently say, “I am not a censor.”

【G.Edward Evans. *Developing library and information center collections 4th ed.*
Libraries Unlimited, 2002, p.559.】

3. 選択

(1) 要求論と価値論について

価値論：図書自体の価値を基準とし価値の高い図書を選択していこうとする考え方

要求論：利用者の要求を基準とし要求の高い図書を選択していこうとする考え方

これまで図書館の世界では、さまざまな選択論や選択法が主張されたり行なわれたりしてきたが、考え方の基本は価値選択と要求選択の二つである。価値選択とは、本の価値によって選ぶ、価値の高い本を選ぶという考えであり、要求選択は、利用者の要求に基礎をおいて選ぶ、要求の高い本を選ぶという考え方である。実際はこれほど単純には割りきれないが、どちらかに重点をかけたり、どちらに重点を置くべきかが主張されたりしてきたのだ。

【前川恒雄『われらの図書館』筑摩書房 1987, p71.】

Quality versus Demand

A central issue in the selection process is whether selectors will emphasize quality or put more importance on potential use when deciding what to buy. Is it an either / or situation? What is the best blend, and how can selectors achieve it? At one end of the spectrum, librarians say a library is the primary means of raising the literary awareness of the community and therefore should contain only the best literature. At the opposite end of the spectrum, librarians say a library is a public institution supported by tax monies and therefore the public should find whatever materials it needs and wants.

質の高さを求めて選ぶべきか、利用を優先して選ぶべきか。それは、どちらか一方を採用して一方を採用しないという問題なのか。そうでないとしたら、二つの考え方をどのように調和させればよいのか。あるいは、どうすれば調和するのか。これが図書選択における中心的な問題である。一方の極には次のように言う図書館員がいる。図書館は地域住民の学問意識を向上させるための基礎手段としてあるのだから、図書館に所蔵するのは「最良の本」に限るべきだ。もう一方の極には次のように言う図書館員がいる。図書館は税金で運営されている公共施設なのだから、住民が必要とし、望んでいる本なら、どのような本であろうと所蔵しておかないといけない。 【参考文献 付録 CD-ROM】

Although many try to make it so, the debate is far from being a “black-or-white” issue. Most public librarians tend to favor a balanced mix of these philosophies. This seems to be a wise move. Besides the problematic issue of defining just what constitutes “quality”(two individuals will often describe the same book differently), a public librarian who ignores demand will surely see use and support by the community dwindle. To some extent, the “quality philosophy” gives little credit to society as a whole, believing that a demand-oriented collection would be filled with only “trash” best-selling novels and works of poor quality. Such an attitude ignores the fact that “classic” literature is always in demand, and majority of material on best-seller list can surely be classified as “quality” level material.

You should, of course, have discussions with your supervisor and your library staff about their philosophy and how it supports the library’s mission. however, after years of poor financial support, declining collection budgets, and competition from large chain bookstores such as Barnes & Noble and Borders, more and more public libraries have been faced with a reality check. If we don’t remain responsive to the *demands* of our community, we will soon become a victim of their neglect. Today you’ll hear more and more library collection developers yell, “The debate is over! Give ‘em what they want!”

「白か黒か」をはっきりさせようとする試みがたくさんあった。しかしこの論争はそういう問題ではない。ほとんどの図書館員は、二つの考え方のバランスを取ろうとしている。それは賢いやり方にみえる。ただし、「質を重んじる考え方」については、「質」を構成する要素とは何なのかというやっかいな問題がある(二人が評価すると、同じ本でも別の評価になることがよくある)。これ以外にもまた、要求を無視する公共図書館員のもとでは住民による利用と支持は確実に減っていくという問題もある。「質を重んじる考え方」は、社会をあまり信用しない傾向にある。なぜなら「要求指向型」を採用すると、質の低い「くず」みたいなベストセラーで蔵書がいっぱいになると思い込んでいるからである。この思い込みは、事実を認めないことで成り立っている。その事実とは、「古典」文学はいつも人気があり、ベストセラーの大部分も確実に「上質」であるという事実である。

上司や同僚がどのような考え方を持っているのか、そしてその考え方は図書館の使命をどのように支持するのかについて、彼らと話し合ってみるのは当然よいことである。しかしながら、貧弱な予算・資料費の削減・Barnes & Noble and Borders といった大手チェーン書店からの挑戦などを経験して、図書館はますます現実的になってきている。もし図書館が住民の要求に敏感であることを止めるなら、図書館は住民からすぐに見放されてしまう。だから、蔵書構成担当者が大声で次のように叫ぶのが、これからますます聞こえるようになるだろう。「さあ論争は終わった。望みのものを提供しよう。【参考文献 p74-75】

値段は高いけれども、文化的、学術的に価値の高い本を図書館が購入し、蔵書として保存する。これは、数は少ないけれども図書館がなければその種の本を読むことができない利用者に応えるという意味でも、また日本の文芸文化を支えるという意味でも、図書館の重大な責務といえるでしょう。... [略] ...わずか二〇〇〇館です。すでに日本の公共図書館の数は、二〇〇〇館を超えています。その図書館が、推理小説の複本などを置かずに、責任をもって良書を購入するということであれば、図書館だけで二〇〇〇冊売れるわけですから、あとは一般の読者が一〇〇〇冊購入するだけで、三〇〇〇冊の本が売れることになります。 【三田誠広『図書館への私の提言』勁草書房 2003 p65-66,p72】

(2)複本

4. 評価

	Collection-Based (蔵書からみた)	Use or User-Based (利用からみた)
Quantitative (量的)	Collection size/growth (蔵書規模/成長率) Materials budget size/growth (資料費規模/成長率) Collection size standards and formulas (蔵書規模基準と定式)	Interlibrary loan statistics (相互貸借統計) Circulation statistics (貸出統計) In-house use statistics (館内利用統計) Document delivery statistics (ドキュメントデリバリ統計) Shelf availability statistics (書架上での利用可能性統計)
Qualitative (質的)	List checking (リストチェック) Verification studies (対照調査) Citation analysis (引用分析) Direct collection checking (直接チェック) Collection mapping (assigning conspectus levels) (蔵書のマッピング・コンスペクタスレベルを用いて) Brief test of collection strength (蔵書の強度の簡略調査)	User opinion surveys (利用者意見調査) User observation (利用者観察) Focus groups (特定層)

【参考文献 p270.】

5. 除架(Weeding)

(1) 除架がなぜ必要か

(2) 80/20 rule...蔵書には非常によく利用されている部分(コアコレクション)と、あまり利用されていない部分(非コアコレクション)がある。

(3) スロートの方法

コアコレクションと非コアコレクション

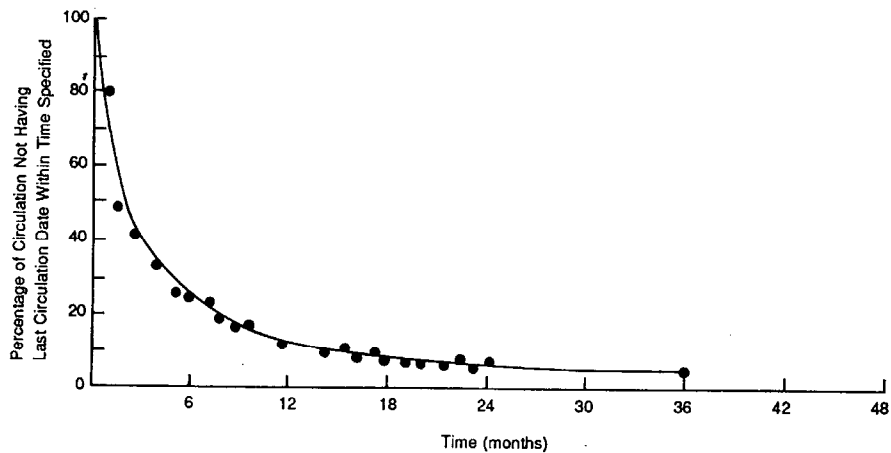


EXHIBIT 4-6 Distribution of book use on the basis of last circulation date. Reprinted from Trueswell (1966), courtesy of *Libri*.

(Sharon L. Baker and F. Wilfrid Lancaster. *The measurement and Evaluation of Library Services* 2nd ed. Information Resources Press, 1991. p105-106.)

(4) 除架への不安

除架に反対する意見

- (1) 私は利用者に広い選択の幅を与えることに誇りを持っている。さらにシステムの加盟館として止まるために多くの蔵書数を必要としている。
 - (2) もし私がこの本を処分したら、明日その本を求めて誰かがくるのを経験上知っている。
 - (3) ところで、この古い本は貴重書で価値がありしかも初版本ですよ!
 - (4) もしある本をそれが利用されなかったという理由で除箱すれば、私とその本を選択したこと自体間違っていたわけで、それは公に許されないことではないか?
 - (5) 除架は公共財産の無責任な破壊ではないか?
 - (6) この主題に関して何冊かが必要である。またわれわれは学生が殺到する場合に備えてすべての複本が必要である。
- (シーガル「中小公共図書館における蔵書の評価と除架」『現代の図書館』Vol.23, No.3, 1985)

6. 図書館は何をすればいいか

【参考文献】

馬場俊明編著『図書館資料論』日本図書館協会, 2004. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ7)

G.Edward Evans. & Margaret Zarnosky Saponaro. *Developing library and information center collections 5th ed.* Libraries Unlimited, 2005.

Wayne Disher. *Crash course in collection Development.* Libraries Unlimited, 2007.

Sharon L.Baker and Karen L.Wallace. *The responsive public library: how to develop and market a winning collection 2nd ed.* Libraries Unlimited, 2002.

Peggy Johnson. *Fundamentals of collection development and management.* ALA, 2004.

Stanley J. Slote. *Weeding library collections: library weeding methods 4th ed.* Libraries Unlimited, 1997.